



8 審議の内容	
事務局・環境政策 課長補佐	<p>定刻前ではございますが、本日出席予定の方がおそろいになりましたので、ただいまから第3回長岡市環境審議会を開催させていただきます。</p> <p>なお、本日出席いただいております委員の皆様は、資料No.1の委員名簿のとおりでございます。</p> <p>それでは、お手元の次第に沿って進行させていただきます。次第の2、環境部長よりごあいさつ申し上げます。</p> <p>(あいさつ)</p> <p>ここからの進行につきましては、会長よりお願いいたします。</p>
環境部長 事務局・環境政策 課長補佐	<p>それでは次第の3、長岡市地球温暖化対策実行計画の素案について、事務局からの説明をお願いします。</p>
会長	<p>(資料により説明)</p>
事務局・環境政策 課長	<p>ただいまの事務局からの説明について、質問などありましたらお願いします。</p>
会長	<p>本日、主に議論いただきたい内容は、前回の審議会で意見があった部分の反映状況と、新たに追加された第8章「市民・事業者における行動指針」です。第8章は、地球温暖化対策を進めるために市民や事業者に取り組んでいただきたい行動を示した部分となります。日ごろ皆さんが考えていることや、加えた方がよいと思う取組などをお話しいただきたいと思います。そのほか、第8章に限らず、計画全体的にご意見などありましたらお願いします。</p>
委員	<p>先回の内容を細かに生かしていただいて、いいものになっているなと思いました。ありがとうございました。</p> <p>2つ質問と、意見があります。1点目ですが、20ページの産業の部分です。環境政策課長が資料の説明で、「これまでの産業別就業者人口のグラフを並べても過去とあまり差がないから掲載しないこととした。」とおっしゃったので理解はできたのですが、最も気になるのが第一次産業です。この長岡は、自然豊かで、森も林もたくさんありますし、米どころでもあります。第一次産業の人口が少しでも減る傾向にあると、関連する産業や環境におけるCO<sub>2</sub>の排出や吸収の面で、マイナスなのではないかと思います。そのため、やはり過去と差がなくても、全体として第一次産業がもう少し豊かになる方向を目指す意志のようなものがここに書かれるといいかなと思います。過去と差がないとい</p>

事務局・環境政策 課長	<p>うことですが、どういった傾向なのかと、それについてのご意見を伺いたいと思います。</p> <p>単純に過去との人数を比べれば、全体の人口が減っているので、すべての産業において減っています。特に農業については、減反政策の影響もあり、数で言えば急激に減っているグラフが出てきます。確かに減ってはいるのですが、産業規模の割合としてはそれほど大きくは変わっていません。</p>
委員	<p>地球温暖化対策、CO<sub>2</sub>を減らすという観点で見ると、20ページの下の方のグラフのとおり、CO<sub>2</sub>の排出はほとんど製造業の分野からです。計画の内容と照らし合わせたときに、一次産業の従事者の減少を何とかしなければいけないというのは、長岡市の総合計画における産業戦略になるのではということで、省かせていただいております。</p> <p>ただ、今ご指摘のありました、一次産業に関しては、このあとの森林や緑地などにおける吸収源対策として大事にしていかなければいけないと考えております。その部分は、今回の見直しの中で、しっかり拡充して書いております。</p>
委員	<p>よく理解できました。ただ、全体が減っており、一次産業においてもどうしても減ってしまうということもわかるのですが、この20ページの産業の部分に「農業・工業・商業のバランスの取れた産業構造を有する町」との記載があるので、やはり現状の数字だけでなく、今後、農業の底上げをしなければならないことを、総合計画で記載があったとしても、書いてもいいのかなと思いました。</p> <p>市民と事業者のアンケート結果を記載しているところ、24ページ以降で質問です。一つの設問に対して、基本的に市民と事業者の結果が対になっているのですが、26、27ページにおいては、市民が1つで、事業者が2つになっています。ここは、どうして市民の結果が1つなのかなと思いました。</p>
事務局・環境政策 課長	<p>これは市民向けのアンケート調査の設問の中で、対比するものがなかったというところがございます。事業者には、再生可能エネルギーの設備導入の意向を聞いているのですが、市民アンケートでは、再生可能エネルギーの意向ではなくて、住宅照明のLEDの対応状況や断熱性能、機密性を高める工事等の状況、住宅の省エネ対策を行うために知りたいことという項目を聞いております。そのため、事業者側は再生可能エネルギーの設備導入の意向と、環境保全と企業利益についての考え方を記載し、市民とは別にしているというのが実態でございます。</p>
委員	<p>ありがとうございます。先回頂きました、「第4次長岡市環境基本計</p>

	<p>画中間見直し」の中で、アンケートが細かく記載されており、その代表的なものを今回の地球温暖化対策実行計画に載せているのかなと思って見ていました。環境基本計画の資料編の28ページに、市民への太陽光パネルの設置状況を尋ねており、そこでは「設置済み」は2.3%、「設置検討したい」が18.5%、「設置することは難しい」が79.2%という結果になっています。確かに市民は「雪国なので、太陽光発電はなかなか難しい」と思っています。ただ、前回、市として雪国の太陽光発電に対する市民の認識を何とか変えたいというご意見があったかと思うので、市民の太陽光パネルの設置状況をこのアンケート結果に載せたほうがいいのではないかと思います。最初の環境部長のあいさつで、長岡での雪国対応太陽光パネルの実証実験についてお話がありましたし、24日に行われた省エネ・再エネプラットフォームでの実証実験の報告もZoomで見させてもらいましたが、長岡市や技科大の取組を初めて知りました。長測や、イートラスト、敦井産業が、「雪国だからと言って、太陽光発電ができないというイメージで固まってはダメだ。自分たちが実績を出して、太陽光発電が雪国でもできるということを見せていきたい。」という熱いメッセージを語られていました。もし、ここにアンケート結果を出していただいたら、市民の認識と、今長岡でやられていることに、とても乖離があることが分かり、太陽光パネルを設置しても大丈夫ですよ、というメッセージが伝わるのではないかなと思いました。</p>
<p>事務局・環境政策課長</p>	<p>ありがとうございました。太陽光パネルの設置状況については、アンケートに載せようか載せまいか、正直迷ったところです。市民の意識調査の中で、カーボンニュートラルの意味を理解されている方は、既に環境に配慮した行動につながっているという傾向が出ています。一方で、ここに8割の方が「太陽光パネルは難しいと思っている」という結果を載せることによって、その結果だけが独り歩きして、行動しないほうへ拍車をかけるデータになりかねないとも思いました。計画の中では、市民向けに太陽光パネルの導入を推進することは、38ページの表で「家庭部門8 市民生活での再エネ導入」に「太陽光発電設備の導入」として、しっかりと記載してあります。アンケート結果で8割の人が難しいと言っているものを推進することになるので、市民の実態と推進する取組のどちらを載せるべきかで悩んだ結果でございます。</p>
<p>会長</p>	<p>私もこのアンケートの部分が気になっていました。現状、アンケート結果のみを載せている状態なので、結果の数字に対してどういう考</p>



<p>委員</p>	<p>のが唯一新潟市で、長岡市は観測期間が40年ほどなので、記載が難しかったところですが、17ページとの関係を見直しながら、どちらがよりわかりやすいかという視点で見直したいと思っております。</p> <p>30ページのグラフの表記の仕方は見直したいと思います。今現在、後ほど報告事項の中でご説明をさせていただきますが、温室効果ガス削減の割合は、2、3年遅れで数値が発表されていくので、最新のものが出てきていない状況の中で、2025年、2027年の数値目標をどのように設定するかというところは、悩んでいます。国も世界に約束している2030年の数値目標だけしか今は示しておらず、新潟県も同様です。それもあり、長岡市も今のところ、この目標を記載させていただいているという状況でございます。</p> <p>文字が羅列されているだけというよりも、写真やグラフ、また例えば47ページにあるような4コマ漫画や、イラストのようなものがたくさん入っていると、パッと見たときに内容が短い時間で理解できて、とてもいいなと思いました。</p> <p>それから同じく47ページで言いますと、下のほうに、例えば高効率給湯器、高断熱浴槽、節水トイレという文言がございますが、これらに対して長岡市で補助など出ているのでしょうか。もし補助などがあれば追記していただきたいと思います。</p>
<p>事務局・環境政策課長</p>	<p>家の新築は対象ではないのですが、住宅リフォーム補助金という形で、住宅をリフォームする中で、今挙げられたような設備や太陽光パネルの設置に対して、上限5万円で補助があります。</p>
<p>委員</p>	<p>47ページに記載されている設備に限らず、エコカーなど、実行計画に記載されているものの中で、もし長岡市から補助が出るものがあれば、例えば※印を付けて「※印のものは長岡市から補助が出ます。」と一言書いていただくと、見たときに、高効率のものを検討してみようかなと思うのではないかなと感じました。</p>
<p>事務局・環境政策課長</p>	<p>7年間の計画なので、毎年議会の予算議決があったり、政策の転換などもあったりして、この補助金制度が毎年続くわけではないので、書きづらい部分があります。紙ベースの計画書としては書きづらいのですが、今言われたような補助に関する内容については、例えばホームページや、この実行計画の概要版を配ったりPRしたりするので、その中で「こういう支援メニューがあります」というような表現で、周知を徹底していければと思っております。</p>
<p>委員</p>	<p>20ページの産業に関するグラフについて、上の産業別就業者人口のグラフの色使いと、下の産業部門のCO<sub>2</sub>排出量の色使いが一緒なのです</p>

<p>事務局・環境政策 課長 委員</p>	<p>が、同じ色でも示している産業が違うので、同じページに載っているのであれば、産業ごとに色が合っていたほうが見やすいなと思いました。</p> <p>ご指摘のとおりだと思います。見直します。</p> <p>今回の主な議論のテーマであります8章ですが、市民や事業者が実際に行動を行っていくにあたっては、まず、脱炭素に向けて意識を持っていただき、理想としては自発的に使命感を持ってもらうことが大事だと思います。そして、次に何をやればいいのかを明確にして、そこから実際の行動につなげていただくことも重要だと思います。市民や事業者の意識改革、行動変容を促す取組については、前段の章までで整理をしているという理解で、この8章では、実際にどういうことをやっていくかについて、明示しているという構成でよろしいでしょうか。</p>
<p>事務局・環境政策 課長 委員</p>	<p>はい。</p> <p>そのうえで、行動指針についてです。細かい話かもしれませんが、例えば47ページのリード文を見ると「いきいきと暮らすことをめざします。」「協力するよう努めます。」という表現になっており、これは恐らく市民の行動指針として、市民が宣言しているような表現になっていますが、リード文の最後の行は、「以下の取組を実践しましょう。」という、外側から働き掛けるような表現になっていますので、少し違和感があります。</p> <p>あと8章でかなりボリュームをとっている、それぞれの取組の実践内容ですけれども、具体的な行動が記載されており、「こういうことも省エネにつながるね。」と気付いていただくのは非常に重要だと思います。ただ、行動指針という位置付けの中では、冷暖房の温度設定や冷蔵庫のドアの開閉についてなどいろいろありますが、これらはどちらかという取組の具体例かなと思っています。これらの具体例を使いながら広くPRしていくということは、それはそれで大事だと思うのですが、もう少し指針の示し方として、具体的な行動の大枠を文章化したうえで、それに対応する取組事例として、今掲載している事例を羅列するという構図のほうが良いのではないのでしょうか。指針のリード文が今記載されている最初の6～7行だとすると、ずっと全体像が入ってこないような気がしましたので、私の意見として申し上げさせていただきました。</p>

事務局・環境政策 課長 委員	<p>ありがとうございます。今のご意見を踏まえて、見直したいと思います。</p> <p>全体的によくまとめておられるなと思っておりますが、第8章の部分の「市民・事業者における行動指針」についてです。例えば、20ページの農業就業者に関する数値だけを示されても、そこから農業やそれに伴う環境の実態を読み取ることはなかなかできません。数値はただ減っているだけに見えても、現実はまだ手遅れだというぐらいの、もうどうにもならない状況になっているわけです。同じく里山の整備にしても、もう手をつけられないぐらいの状況になっているのですが、そういったことを、ただ数字などを用いて表面上だけで考えても、大して問題がないように見えるのです。やはり市民が問題の本質に気付かないといけないと思います。おそらく私の予想だと、今の環境は10年20年で健全な状態に戻るような状況ではなくて、数百年たたないと元に戻らないような気がしています。市民や事業者にも、危機的な状況であることを自覚してもらって、実際の行動に移せるような、具体的な取組、例えば農業関係であれば化学肥料や農薬をなるべく使わない、インフラ整備であれば舗装はなるべくしない、というような具体的な記載をした方が良くと思います。もちろん、それによって災害が起きるのは困るので、社会インフラが弱体化するようなことはなるべく避けなければなりません。日々の行動の中で危機意識を持って実行してもらえるような項目を1つ、8章の中に加えたらどうかと思っています。</p>
事務局・環境政策 課長 会長	<p>ありがとうございます。加えたいと思います。</p> <p>8章のデザインについて、アースカラーでまとめるのは柔らかくてとても良いのですが、48ページ、49ページがほぼ緑色になってしまっています。まだデザインの途中だとは思いますが、先ほど他の委員が言われたような、危機的な状況を踏まえて使命感を持って取り組むべき内容を、柔らかく収めた印象で伝わると、やや問題になってきてしまう気がします。私の中では、やはり知らないものを知ることが大事だと思っています。だから、事実や取組だけではなく、現状を踏まえた危機感や使命感も伝わるような計画を作成し、見た人が知らなかったことを知り、その次の世代に伝えてほしいぐらいの気持ちで、計画ができれば良いと思っています。</p> <p>では、皆様の貴重なご意見出ましたところで、これを踏まえて、地球温暖化対策実行計画に生かしていただきたいと思っています。議事3に</p>



事務局・環境政策 課係長	<p>についてはこれで終了したいと思います。</p> <p>それでは、次第4、報告事項について事務局から説明をお願いします。 (資料により説明)</p>
会長	<p>事務局からの報告について、ご質問がありましたらお願いいたします。</p>
事務局・環境政策 課長	<p>この標語コンクールですが、これはどのぐらいの歴史があって、今後どのように続けていく、形を変えていくのでしょうか。構想があれば教えてください。</p>
事務局・環境政策 課長	<p>スタート経緯は定かでないのですが、コンクールを始めたのは平成24年度からです。子どもたちの夏休みの宿題という形で、学校が使っているケースもあります。ただ、今年、一次審査のときに、少し悩んだのが、ChatGPTを使用してできてしまうのではないかと、子どもたちが環境を考える機会としては別の方法があるのではないかと、いろいろと悩ましい問題は出てきています。もしかしたら標語ではなくて、違う形で子どもたちが夏休みなどに、環境のことをしっかり考えてもらう別のものに変化していく時機かもしれません。例えばグリーンカーテンをつくろうと、子どもたちに種を渡し、自分で育てて家に緑を増やしてヒートアイランドを少しでも緩和しましょうだとか、大学生と一緒に、何か新しい温暖化対策のことを考えてもらうとか、やり方はあるのかなと思っております。見直すタイミングもそろそろかなという気持ちも持っております。</p>
会長	<p>毎年楽しみにしているこの標語ですが、今年はちょっとグッとくるものがなかなかなくて、選ぶのに困ったぐらいです。ChatGPT、うちの大学もとても大問題になって、レポートをすべてそれで終わらせてしまう人も多いですが、これからは新しい形で、少しずつ変化しながら、新しいアイデアを募っていくことが一番いいのかなと思いました。</p> <p>最初に部長から「呼びかける」という言葉がありましたが、おそらくそれは市民や事業者に対しての言葉、呼びかけるという非常に大事なことだと思うのです。本日、いろいろと議論しましたが、やはり我々委員がここで一番に、大事なことをいかに伝えられるか、知っていただくかということを考えることが非常に大事ですし、今日の意見も伝わり方に関するご意見が非常に多かったと思います。先ほども言いましたが、それをどう伝えて、次世代に説明していくかということが、やはり一番大事だと思うので、今後皆様にまたご協力をお願いしたいと思います。</p>

<p>事務局・環境政策 課長補佐</p>	<p>それでは、これで本日の環境審議会の議事および報告は終了となりますので、進行を事務局にお返ししたいと思います。</p> <p>ありがとうございました。最後に次第の5、その他に移ります。今後の流れですが、本日のご意見を考慮して、修正した計画案について、後日市議会に報告し、その後市民の方からご意見を頂くパブリックコメントを行います。そしてパブリックコメントの意見を考慮し、修正した最終の計画案を、次回、第4回の環境審議会でご審議いただくこととなります。</p> <p>なお、第4回環境審議会は、令和6年2月下旬から3月ごろを予定しております。開催日はまた別途お知らせさせていただきます。</p> <p>それでは、以上をもちまして、第3回長岡市環境審議会を終了させていただきます。本日はお忙しいところ、まことにありがとうございました。</p>
<p>9 会議資料</p>	<p>別添のとおり</p>